

# CONSERVATION VOLUNTEERS Vol. 15

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

	<b>新理事長就任のご挨拶</b>	p1
特集	リーダーミーティング「環境NPOではたらくこと」	p2
	ゲストの皆様のご活躍	p3
	ディスカッション	p5
報告	リーダートレーニング研究会	
	「子ども食堂と環境保全活動が連携してできること」 お知らせ	p7 p8

## ■ 新理事長就任のご挨拶

朝廣和夫（九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN理事長）

昨年、2016年8月に重松敏則理事長（九州大学名誉教授）が他界され、しばらく理事長不在で会を運営してまいりましたが、2017年1月19日の理事会において、新理事長として副理事長より朝廣和夫が、新副理事長として理事より小森耕太氏を選任いただきました。新たな体制のもとNPO法人日本環境保全ボランティアネットワークの活動を進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

ここで、本法人の目的を引用し、新理事長として今後の方向性を述べてみたいと思います。

（目的）

第3条 この法人は、管理が行き届かず荒廃する農山村や都市近郊の里山や里地、自然地に対して、地元住民や都市住民ならびに青少年などのボランティアによる環境保全・復元活動に関する事業、環境保全にかかる人材育成事業、ならびに国内外の環境保全活動団体との連携強化及び活動支援

事業を行い、もって美しく、持続的な国土環境の保全と参加型の安定した社会の形成に寄与し、地球温暖化の防止や国際交流に貢献することを目的とする。

◇荒廃する農山村や都市近郊の里地・自然地

今年は1945年の終戦から72年を迎える年になります。荒廃した国土を森づくりから復興するという考え方は、特にその時代から続いてきたように思われます。1960年代のエネルギー革命を経て、森林はバイオマス燃料から建築材の供給へと大きく用途をシフトし、スギ・ヒノキ人工林へと変わりました。1970年代の環境問題のグローバル化を経て、レクリエーションや環境教育の場へと、森林に限らず、海や農地、都市を含め、あらゆる環境は、人と環境のバランスを無視して活動を行うことはできない時代となりました。

欧米の背中や世界を目指して活動してきた今、保守主義ではありませんが、国内に目を留めない

ければならない時代のように思われます。建築材料の多様化、人口の減少を受け、国内の森林管理、食料の生産は厳しさを増しています。森林の管理不足や竹林の拡大、耕作放棄地の拡大は言うに及びません。都市においても緑地の管理経費は削減され、街路の雑草は眼を覆わんばかりの状況です。欧米と決定的に異なる我が国の特徴は雨量と立地です。全国平均で約 1700 mm 程度の年間雨量を有し、起伏ある国土は、たいへん豊かな自然環境の恵みをもたらしています。しかしながら、近年増加する豪雨にとどまらず、地震などの災害も多いと言えます。この土地では、日々の草刈りや農林作業、緑の管理を欧米よりも多数行うことが必要です。この恵まれた、厳しい自然環境の摂理と共に生きる、暮らし方です。我が国の都市計画基本方針はコンパクトシティにシフトしました。しかしながら、山紫水明の日本では、豊かな田舎がなければ、豊かな都市は存在しません。あとは野となれ山となれとは、昔の話であり、現代ではリスクの増加を意味します。田舎や緑の活動が益々必要であり、それを担う主体形成が求められている時代だと考えます。

#### ◇後継者問題と人材育成

近年、どちらを向いても人口減少と後継者問題がステレオのように聞こえてきます。緑のボランティア関連でも、団体数やボランティア数が減少に転じたと言われています。一億総活躍と言われても、限りある時間と労力の中で、どこで活躍するかは人々の生活と価値観次第かもしれません。

このような時代に、緑のある豊かな生活を実現するには、緑を開き、参画できる社会を築くことと考えられます。技術や価値を伝え、一人一人の

豊かな生活を実現してもらおう。その先に、バランスのとれた災害に強い、コミュニティと自然環境が形成されることが理想です。

JCVN は、目的にあるように、ボランティアという人、そして、実践活動に着目をしてきました。それは、国土保全や社会形成、そして環境保全の実現を上位の目標としています。しかしこれからは、「新しいライフスタイルの実現」、このような視点にも、強くコミットしていく必要があるかもしれません。

#### ◇新たな船出

多くの人がスマホを持ち、SNS を使う時代。所有者が少なくなれば、借り手が増える時代でもあります。人々がテンポラリーに繋がりながら、活動を展開し、目的を達成し、価値や技術を伝え広めていく。そのスピード感は、想像を超えて現実のものになりつつあります。

私たちは小さな組織です。NPO として常に感覚を研ぎ澄まし、新たなチャレンジを行い、メッセージを発し、サービスを提供する。そういうセクターでありたいと思います。

ただ、私たちの理事は全員、その他の専門のNPO や職業を持つ集まりです。ネットワークの課題は、いつも時間、労力、事業規模の狭間にあります。これを解決するには、専門との連携、事業の具体化、基盤の強化にあると考えます。今後の活動方針は、理事、会員の皆様との議論の中で決定し、関係者がリーダーシップを発揮できる活動を展開したいと考えます。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

2017年3月6日 理事長 朝廣和夫

## 特集 リーダーミーティング「環境NPOではたらくこと」

### ■主旨と全体概要

朝廣和夫 (九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN理事長)

環境にやさしい暮らしや社会の実現を目指し、環境をテーマにした仕事に取り組む人たちはどんな人なのか？どんな夢や希望、課題があるのか？

平成29年2月11日、14時～17時

て、福岡市天神にある九州電力のご協力を得て、電気ビル本館 地下2階の会議室をお借りし、下記のプログラムを実施しました。

~~~~~

14:00 開会あいさつ

14:10 若手ゲストによるプレゼン  
(5分間×8名程)

進行 塚本竜也さん (NPO 法人トチギ環境未来基地代表理事)

15:20 グループごとのディスカッション

16:30 全体共有

17:00 閉会

~~~~~

ここで、会の雰囲気を感じてもらいながら、ゲストの紹介、そして座談会の内容をご紹介します。



## ■ゲストの皆様のご活躍

進行 塚本さん: 過去を見ると、学生運動をされ社会活動を作られた世代の方々がおられます。彼らを第一世代とすると、その活動を職業として成り立つかを第二世代が取り組んできました。今まで続けてきて、最近では若手と呼ばれなくなりました。では、仕事として取り組んでいる第三世代は、何を考えているのでしょうか。こういうことを共有できたらいいと思います。前半は、それぞれ活動している人たちが、団体の事、輝いているとき、働いてびっくりしたことを話していただきます。その後、発表したことを掘り下げる座談会を実施します。休憩時は、循環生活研究所さんの美味しいお菓子をいただき、後半は、意見交換・交流の場とします。

### ◇羽田野仁喜さん (九州大学大学院、株式会社 SCIO):

現在は、九州大学でタンパク質の研究。3年生の時に科学教育の株式会社を設立しました。科学は体験をしてもらわないと、その大切さがわからない。小学生へのアンケートを取ると、体験活動が多いほど理解が深まります。例えば、蜂に触る体験。オスはささないということを知ってプログラム化しています。土の中の生き物を探してみよう、子供たちは一生懸命、虫を探してくれて、そういうところがやりがいになっています。様々な観察会や教室、アンケート調査を実施するなか



で、応援してくれる方々がどんどん増えています。最後に、これから自然科学に関する教育活動がさらに発展していくことを期待しています。

### ◇上角梓さん (NPO 法人循環生活研究所):

インドへバックパックをしたときに、貧しい人との格差を感じました。活動は、ダンボールコンポストを軸にしています。コンポストの講座や、コンポストを教えることができる人を育てています。大事にしていることは半径2キ



ロで資源を循環させる豊かな暮らしを作ることです。今は6000キロの先から食料などが来ています。普段の担当はローカルフードサイクリングです。「生ごみ→コンポスト→交換回収→畑→野菜→食べる」を循環させ、「他人事層」という言われる人々を巻き込むため、半分サイズのダンボールを使用したり、5回の回収に1回は野菜がもらえるなど、様々なインセンティブを試みています。自分が輝いているときは、面白い写真撮影に凝っています。驚いたことは、強力な協力者が協力いただけること、皆さんが社会を変えようとしていることです。最後に一言は「NPOで働くことは嘘のない毎日を送る」こと。企業で働いているとき、ウソのない言葉でしゃべっていたかなと、思う。実現したいことのために、自分の中から言葉が出てくるのが気持ちいいです。

### ◇小宮春平さん（やながわ有明海水族館）：

高校卒業して、水族館館長をしています。有明海の保全を目的に、有明海で実験区を作り調査をしたり、掘割にウナギを戻す調査、啓発活動として水族館を行っています。水槽の管理は、学生が主体で行っている。入場料



は 200 円をもらい、それで運営している。環境教育は大切だが時間がかかる。今、動かなければ絶滅しかねない生き物はたくさんいる。人材確保が難題ならば、環境に興味関心のある学生を集めることで、できるのでは。H28 年度から環境保全連帯会議を作りワークショップをしました。学生の輪を全国へと、SNS などで、「有明海の凶鑑を作ろう」という活動をしています。1 年で利己主義的な生物屋や、偽環境保護団体が無視できない団体へ、2 年後は環境省が無視できない団体を目指しています。

### ◇豊国寛隆さん（NPO 法人山村塾）：

山村塾は棚田で無農薬のお米作り、山の方では森づくりや炭焼き、合宿型のワークキャンプを実施しています。夏場は、草刈り・草



取り、ラッキョウづくり、秋になると農家さんやイベントのお手伝い、冬はシイタケの菌打ちをするなど、私たちは自給的な暮らしをしています。自分が輝いていたのは、台日交流ワークショップなどで特に明るく仕事できたことです。びっくりしたことは、英語での生活、仕事で英語が飛び交うことに驚きました。仕事を通して得た大切な人たちは、ワークキャンプをきっかけで親友になった人たちが多く、宝物になっています。

### ◇荻野 友香里（フクシマ環境未来基地、一般社団法人栃木県若年者支援機構 学習支援・こども食堂担当スタッフ）：

大学時代から「国際」に興味があり、企業で働いているときに東日本大震災が起こりました。企業に就職しましたが、周りで



輝いている人を考えてみると、NPO で働いている人と考え、その世界に飛び込みました。トチギ環境未来基地にたどり付き、竹林や森の活動を知り、とても良い活動で、これを広げる意味があるのではないかと思います就職しました。フクシマ環境未来基地は震災後に立ち上がった団体です。いわき市で古民家を借り受け、昨年、3 か月の国際ワークキャンプを実施しました。具体的な仕事は、プログラムのコーディネーター、事務局業務としてホームページの開設、林業事業者へのインタビュー、林業女子会の開催、古民家の再生、刈払い、チェーンソーで薪づくりなどです。普段はトチギ環境未来基地におり、子供食堂を週に数回行う他、サマーキャンプやウィンターキャンプも行っています。私の驚きは、自分が今までしたことのない仕事をしてきたことです。最後に一言、社会の問題と密接にかかわっている仕事だからこそ、現状に満足せず、常に問題提起をしていくことが必要であり、それができる仕事！！、です。かなり、やりがいがあります。

### ◇福島優さん（NPO 法人グリーンシティ福岡）：

NPO 法人グリーンシティ福岡は、福岡市を中心に自然の保全活動や環境教育をしています。自分が特にしていることは「歩くこと」



に関わる、ガイド、登山道調査、トレッキングコースの作り方、検討会などをしています。自分は歩くことが好きでした。中学時代は探検部の合宿参加し、夏に 100 km、種子島を泣きながら歩いて縦断しました。部活を続けていると楽しくなりました。九州の自然歩道に関わりたいと思い、福岡で関わる団体を環境省に聞いたところ、今の団体を紹介されました。自分が輝いているときは歩いているときです。一番驚いたことは、イラストレーターやフォトショップなどの描画を行うコンピューターソフトを使うようになったことです。最後に一言、歩くことは永遠に、あたり前にできることだけど、ちょっと、意識すると地域のことなどを意識できるようになります。

## ■ディスカッション

塚本さん：ここからは、前に出てもらい、他の人に聞いてみたいことを聞いてもらいます。発表を聞くと「自分で考えているし」いろんな人に聞いてもらいたいと思いました。

Q. 上角さん：お金について、荻野さんは企業から、半分になっているのでは。最低限、生きていければいいし、勉強しているということもあるし、お金に対しての概念を教えてください。

塚本さん：確信ですね。親は心配していますしね・・・

荻野さん：ボーナスはなくなったので、そんなに想像していなかったけれど、最低限、生活できるようになりました。転職したときは親もかなり反対しました。親には言えないこともあるけれど、私も自分の中のやりがいも大切でした。ずっと長く続ける仕事だから自分が充実しないと親が悲しむんじゃないかな。今、輝いている姿を知ってもらい、転職してよかったと思ってもらいたい。やりがいが一番、重要なところです。

豊国くん：お金をめっちゃほしいとは、お坊さんなので思わないし、山で生活しているのでご飯は恵まれて食べれているのでお金には困っていません。

福島くん：大学の時にベンチャーに就職する予定でしたが、会社の都合で入れなくなりました。卒業後フリーターになり、やばい、という状況で、自分が何を大切にしたいか、というときに、九州自然歩道を活性化させるために歩くことになりました。お金より、自分が何をしたいかを重視しました。

羽田野さん：営利団体なのでお金は欲しいです。株式会社にしたのは、稼いで、お金を使って教育を広げていくことが理想でした。個人としては、ほぼ、お金は入っていません。今、大学院生なので、奨学金をもらいながら生活をしています。

小宮さん：自分は、まだ一番お金をもらっていません。生活は、NPO の支給をもらいながら、1日 400 円で生活していました。昨年夏まで、魚の飼育をしたり、これから生きているかもわから



ない。環境保全学生連帯会議をしたときの旅費などは NPO からもらい、という感じです。

上角さん：掘り下げると、お金よりもやりがいを優先した。自分で稼げるようになればよいと思っています。稼げる NPO があればよいと思う。事業でお金が回る部分を増やして、皆でできると良いと思う。

塚本さん：1つは、トレードオフなので、やりがいをとるし。生きていくのは可処分所得なので、生活費を圧縮するのは若い人のトレンド。会社と NPO の距離はなくなりつつある。そのあたりが今の話でも見えてきました。～(中略)～

質問：羽田野さん：企業でこれから研究をします。研究は、お金をかける割に成果が出ません。教育で成果ができればと思い、こういう活動をしてきました。皆さんの、今後の計画（1年後、30年後）を教えてください。

福島くん：NPO の一事業として、運営しています。今年で、5年目。最初は、小さな集まりから始まり、少しずつ仕事をとってきていますが、それを発展させていきたいです。

小宮くん：自分は先が見えていませんが、連合を大きな団体にしたいです。タイムラインジャックという、同じ日の同じ時間に SNS に写真を出すなどの活動をしたいです。その先は見えていません。生物多様性国家戦略などを無視して持論で話される人がいます。個々の命が大切ですが、外来種を殺してはいけないという風潮がところどころで見られます。そういう人たちに、無視されないものを作りたいです。

豊国くん：はじめたきっかけは、お坊さんよりも環境保全で貢献できると思い、こういう道に進みましたが、お坊さんの仕事に共感を覚えることも最近あり、ゆれてきています。お坊さんとして半分活動し、残りはNPOとして活動して生きていける人になりたいです。

上角さん：半径2キロの資源循環活動の普及を世界でやっていきたいです。これが実現できれば、搾取される構造がなくなると思います。

荻野さん：将来、広島に帰り、自分で生まれ育った町に貢献したいです。今の活動を広島でできればと思います。

塚本さん：六者六様、自分で考えているし、自分で選択をしている。こういうチャレンジがどれだけ広がっていくかは大きなことだと思います。

~~~~~

休憩後はディスカッションが行われ、引き続き塚本さんの司会進行の元、平理事、小森理事、志賀理事が前に登壇し、ディスカッションが行われました。

これまでの活動について、それぞれ、10~20年近くNPO活動を続けてきて、目標に向けて継続してきて今も継続していること、継続にはお金と目的のバランスが難しいこと、健康を維持することが大切なこと、見積もりや積算の技術が大切なことなどが紹介されました。

これからの活動については、日本の社会が変わってきたこと。環境分野のNPOは収入構造を作りやすく工夫がいること。時代に応じて様々なブームが来るが一步引いて流されずぶれずに活動をすること。NPOや環境の分野は生き物だけでなく、生き物と人、人と人を繋ぐ、というのがますます必要とされてくると思われること。税金が上がると高い参加費は難しいかもしれないこと。インフラとしてNPOの立場が継続して必要とされると思われること。海外のNPOはケタが大きく、私たちも大きく成長する可能性があること。経営という視点では、倫理経営が大事でNPOの強みであること。NPOは人が資源で、磨き合い、育ちあい、NPOが力を持ち社会が大きくなっていくこと。などなど、多くの方向性が共有されました。

これからの若い世代には、自由にどんどんやっ

てほしい。プレイヤーも大事だけどお金の管理や会員さんとのやり取りを丁寧にするなど、裏方仕事もしっかりすることが稼ぐためには大切なこと。専門が二つあると有利であり、輪が被るところ、双方から広げていけると良い。このようなメッセージが送られました。

最後に、副理事長より、下記の挨拶が成されました。

小森：副理事長の小森です。寒い中、人がどのくらい集まるかと思いましたが、たくさんおいでいただき、熱心にご議論いただきありがとうございます。個人的には、早期退職をしたいと時々、言っています。米を作り、山仕事をする人になりたいと思っています。次の人たちに引き継いで行ける組織に発展していきたい。そういうことが感じられる一日でした。この会場は九州電力の未来財団のご協力をいただいています。ありがとうございました。

また、九州電力の三宅氏より、下記のお言葉をいただきました。

三宅氏：九州電力の総務でボランティア担当をさせていただき、各団体とご一緒させていただいています。活動の中で地域の課題の活動に携わることで、NPOさんの地域課題に詳しい方と共同する。こういった会場を、お貸しするのも1つの取組みです。活動を共同でさせていただき、お互いが足りないところを協力してすることで、より効果のある活動ができればと思います。若い人から様々なお話を伺わせていただき、ありがとうございました。



循環生活研究所さんの美味しいお菓子

## 実施報告 リーダートレーニング研究会

### ■第21回「子ども食堂と環境保全活動が連携してできること」

塚本 竜也 (NPO 法人トチギ環境未来基地 代表、JCVN 理事)

2016年12月15日のLT研では、理事の塚本竜也氏が栃木県で取り組みをスタートされた、子ども食堂と連携した子どもの自然体験活動について話題提供を行いただき、子どもの貧困問題に対し環境保全団体ができることを考えました。

近年、子どもの貧困問題が社会的に大きな問題となっています。いわゆる途上国の貧困と異なり、見えにくい貧困ですが、その状況の中で困難を抱えている人が多くいます。現在では、子どものうち6人に1人(16.3%)が相対的貧困にあると統計が示しています。相対的貧困は、日本国民の世帯所得の中央値244万円の半分以下の所得で生活をしている人をさします。

私は栃木県で、森づくりのNPOトチギ環境未来基地を運営しながら、一般社団法人栃木県若年者支援機構でも働いています。機構では、生活困窮者の学習支援事業や、子ども食堂の運営も行っています。その事例を紹介させていただきました。そこでは貧困は身近です。例えば「今日も朝ごはん食べてない」や、「うどんばかり食べてます」など、毎日の食についても十分でない子ども達があります。子ども達の今にとってもしんどいばかりでなく、子どもの貧困のもう一つの大きな課題が、機会の格差です。例えば大学進学率についても、全世帯の現役大学等進学率が73.2%であるのに対し、生活保護家庭33.4%、ひとり親家庭41.6%、児童養護施設23.3%となっています。大学進学をするかどうかで生涯所得は大きく変わります。「貧困は連鎖する」といわれる所以です。

学習機会の格差だけでなく、体験の格差も課題となっています。例えば、私の関わっている子ども食堂でも、あるシングルのお母さんが、「夏休みだけ、私も毎日仕事で子どもをどこにも連れて行ってあげることができない」、とおっしゃっていました。確かに、レジャーに行くにも、お金がかかります。毎日働きながら子育てをしている人たちにとっては、その時間の捻出も難しいこともあります。そこで、トチギ環境未来基地ではこの夏と冬に、子ども食堂と連携して子ども達のための自然体験キャンプ「わくわくキャンプ」を1

泊2日で開催しました。15人の子ども達が参加しました。活動実施の財源は寄付で多くの方々に支えていただき実施しました。

事例紹介の後、参加者の皆さんと意見交換を行いました。/森林で遊ばせるなど、その時間はお母さんが安らげるから日帰り活動でも意義がある/同じ作業をすると仲良くなれる/民生委員など地域と密着している機関との連携がベストではないかなど、活発な意見が出ました。

遠くにお金をかけて出かけなくても、身近な自然ですごく楽しい時間を過ごせる。いろんな体験ができる、そういった時間や空間を環境保全団体は提供できると思います。例えば日頃整備している里山に子ども達に来てもらって一緒に遊ぶ、落ち葉を集めて焼き芋をする、など、あまりそういったことをする機会がなかった子ども達にとってはかけがえのない時間になります。里山整備団体にとっても整備をした里山の有効活用にもなり、「子どものためなら整備手伝うよ」、といった新しい協力の輪を広げる機会にもなります。その時に、日頃のリーダートレーニングでの経験や活動のコーディネーションといった力が役に立つことは間違いありません。加えて、これからは分野の違うグループやテーマと里山や環境をいかにつなげていくか、というつなげるリーダーシップやコーディネーションがますます必要になると考えています。



~~~~~  
祝！ NPO 法人トチギ環境未来基地さんは、第14回オーライ！ニッポン大賞 グランプリ（内閣総理大臣賞）を受賞されました。おめでとうございます。

## お知らせ

## イベント・ボランティア情報

## ●第9総会のご案内

会員の皆様へ

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃から当法人の運営にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク第9回総会を下記のとおり開催いたします。ご多忙の時期とは存じますが、是非ご出席賜りますようお願い申し上げます。

記

日時：平成29年5月18日（木）  
17:00～18:00  
場所：九州大学大橋キャンパス2号館4F  
（福岡市南区塩原4-9-1）

審議事項：

- ・議案第1号  
平成28年度事業報告および収支決算
- ・議案第2号  
平成29年度事業計画および収支予算
- ・議案第3号 定款の変更  
その他

以上

## ●JCVNリーダートレーニング研究会

JCVNでは、隔月で環境保全リーダーのためのプログラム研究会を実施しております。リーダーの方、関心がある方、私たちと一緒に活動したい方のご参加お待ちしております。

## ◇4月20日（木）

<山都町棚田復興プロジェクト報告>  
とき：18時半～20時半  
場所：福岡市 NPO・ボランティア交流センター  
あすみんセミナールーム  
参加費（会員・学生）無料 （非会員）1,000

## ◇6月15日（木）

内容：未定  
とき：18時半～20時半  
場所：未定

## ●JCVNの仲間を広く募集しています！

あなたの支援が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる環境保全活動をめざした団体のネットワークづくりの力になります。入会申込書をご送付いたしますので、事務局までお問い合わせください。

JCVN理事をはじめ、環境保全活動の専門家のノウハウが詰まった会報が、年に3回お手元に届きます！また、メーリングリストでもJCVNが開催・協力するイベント情報等を随時ご案内いたします。

活動への寄付も受け付けています。環境保全団体のネットワークづくり、リーダー育成支援のため、皆さまのご協力をお待ちしています！

- ・個人正会員（¥10,000／年）
- ・個人賛助会員（¥5,000／一口以上）
- ・団体正会員（¥20,000／年）
- ・団体賛助会員（¥10,000／一口以上）

[会費・寄付振込口座]

番号：01760-9-122407

名称：日本環境保全ボランティアネットワーク

## CONSERVATION VOLUNTEERS 15

- 発行日：平成29年3月16日
- 発行頻度：年3回
- 発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）
- 事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202  
tel/fax: 092-215-3966  
e-mail: jcvn@greencity-f.org